

# かけもちイヌ・かけもちネコ

Dogs and cats possessing multiple owners

仁平 義明 (星槎大学大学院教育学研究科心理学研究室)

● Yoshiaki NIHEI (Department of Psychology, Graduate School of Education, Seisa University)

つげ義春の作品に「峠の犬」という漫画がある [1]。江戸時代の行商人の男と隣家の犬の話である。

一年ほど前、近所をうろついていたのら犬が「五郎」と名付けられて隣の家で飼われるようになる。五郎は、行商人が旅に出るときには、途中まで見送るようになった。あるとき、旅から戻ると、五郎は十日ほど前から行方不明になっていた。しばらくして、行商人はまた旅に出る。彼は、途中の分かれ道で、ふと、いつも行く道とはちがう道を選んだ。道の先の峠の茶屋で、行商人は五郎に再会する。右耳だけが垂れていて、すぐに五郎だとわかった。飼い主の茶屋の主人がいうには、犬は「ハチ」という名前で、一昨年にいなくなり、一年前にまたヒョッコリ戻ってきた。ハチは無愛想で、行商人のことを覚えているのかどうかわからない。

前任の白鷗大学で同僚だった加藤澤男さんから、同じようなネコの話聞いた。

彼の家はつくば市にある。家に、いつのまにか黒いノラネコが居つくようになった。家族が餌をやっているうちに愛着がわいて、とうとう飼いネコにすることに「クロ」と名付けた。黒いから「クロ」は単純すぎるネーミングだと思うけれど、私の家でも、同じように居ついたノラの三毛猫を「ミケ」と名付けて飼ったのだから、似たようなものである。

あるとき、加藤さんの家に1キロメートルくらい離れた家の人が用事で訪ねてきた。その人は「クロ」を見て、お前なんでこんなところにいるんだ!と驚いた。クロは、その人の家で別な名前前で飼われているネコだったのである。

かけもちイヌとかかけもちネコ。飼い主と伴侶動物の関係のなかでも、ゆるい関係の話である。どちらも、飼い主は自分の家だけのイヌ・ネコだと思っている「一対一」の関係なのに、イヌ・ネコ側からすれば、飼い主は二つの選択肢のうちの一つ「一対二」の関係である。

現代の日本では、イヌが複数の飼い主の間を自由に行き来することは少ないが、「地域ネコ」や「大学ネコ」がいる。これらは「Semi-Ownership」(半飼い主)という範疇に入る。「半飼い主」の条件は、自宅で専断的に飼育するのではないけれど、さまざまな餌やりではなく比較的安定した給餌、ときには獣医に連れていく健康管理や不妊手術までも行うことである。「半飼い主」と動物の関係は、通常の飼い主のような「一対一」や、かけもちイヌ・ネコの「一対二」ではなく、一段とゆるい関係の「一対多」あるいは「多対多」である。

白鷗大学で、ある女子学生は「大学ネコ」に定期的な給餌を続け、学生にしては大金を使って一頭の不妊手術を受けさせ、アパート

で、ほんとうはネコを飼ってはいけないうのだけれど、専断的な飼い主と伴侶動物の関係に移行した。手術代はだすよといったかったが、私は何もせずに、彼女が「半飼い主」からほんとうの「飼い主」になっていくのを見ていた。

「大学ネコ」には、一対一のコントロールができないための問題もある。東京大学の時計台前を行動範囲にしている「大学ネコ」では、キャット・フードを過剰に与えられて、かなりの肥満になっていた例がある。また、不妊手術をすべての動物に行うのも難しい。

タイ(バンコック、およびタイ中央部・北部・北東部・南部)のイヌとネコの半飼い主に関する電話調査 [2] では、宗教的・文化的な伝統の影響で、イヌの半飼い主の割合は14%と高いが、不妊手術をしているのはそのうちの17%だった。ネコの半飼い主の割合はそれよりは低く11%で、不妊手術をしているのはそのうちの7%だけだった。

アメリカ南部の大学コミュニティでも、ネコの「半飼い主」に関する電話によるランダム・サンプリング調査がある [3]。調査はフロリダ州アラチュア郡の、フロリダ大学がある大学コミュニティで行われたが、このコミュニティ住民の約四分の一は、大学の学生だった。その意味では、「大学ネコ」も含まれている調査である。調査の結果、ネコの半飼い主になっている割合は、住民の約12%、そのうちの11%が不妊手術をしていた。

人と伴侶動物の関係は、タイトな専断飼育関係や比較的ゆるやかな「半飼い主」、ときには「かけもち」関係、さらにはたんなるカジュアルな接触関係までとさまざまである。その関係は、人間側が一方向的にコントロールをしているような錯覚を持ちがちだけれど、「かけもち」や「半飼い主」のような例をみていると、動物側も選択権を持ちながら人との関係を巧妙にコントロールしているという関係の連続体を考えた方がよいのかもしれない。

## ■引用文献

1. つげ義春. 峠の犬. 『ねじ式』(つげ義春). 東京:小学館, 1995: 75-86.
2. Toukhsati SR, Phillips, CJC, Podberscek AL, Coleman, GJ. Semi-ownership and sterilisation of cats and dogs in Thailand. *Animals*; 2012;2:611-627.
3. Levy JK, Woods JE, Turick SL, Etheridge DL 2003. Number of unowned free-roaming cats in a college community in the southern United States and characteristics of community residents who feed them. *Journal of the American Veterinary Medical Association*;2003: 223:202-205.